● 新規購入図書紹介

図　書　名	著　者	出　版
地方自治・地方行政		
これからの地方自治の教科書	大森　彌・大杉　覚	第一法規
公共施設のしまいかた	堤　洋樹	学芸出版社
社会・福祉		
地域とゆるくつながろう！	石山　恒貴	静岡新聞社
災害に強いまちづくりは互近助の力 ～隣人と仲良くする勇気～	山村　武彦	ぎょうせい
農業		
農と食と地域をデザインする	長岡　淳一・阿部　岳	新泉社
観光		
観光ブランドの教科書	岩崎　邦彦	日本経済新聞出版社
情報		
AI社会の歩き方　人工知能とどう付き合うか	江間　有沙	化学同人

オリンピックイヤー　～56年前を振り返る～

あけましておめでとうございます。令和２年は皆さんにとってどんな年になるでしょうか。
さて、いよいよ今年はオリンピックが開催される年です。東京での開催は２回目で、昭和３９年以来、５６年ぶりとなります。当時と現在を比べると、和歌山市も大きく変わりました。今回は、当時の和歌山市の様子を振り返ってみようと思います。

議会図書室にある本によると、昭和３０年代の和歌山市は交通量が少なく、人も自転車も悠々と道の真ん中を行き来していました。市電（路面電車）が市街地をのんびりと走り、チャンチャン電車の愛称のもと、市民にとって身近な足として親しまれていました。

また、当時の生活環境は、家庭にテレビがあまり普及されていなかったため、映画鑑賞が楽しみの一つとして人気を集め、和歌山市内には映画館が２４館もありました。
市電に乗って本町２丁目にお出かけし、丸正やぶらくり丁で買い物や映画を楽しみ、丸正の食堂で食事し、屋上の遊園地で遊ぶことが、当時の定番でした。また、まちの路地では、子供たちがコマやペッタン（メンコ）、フラフープなどで遊び、お正月には凧あげをしていました。

このような時代の中、前回の東京オリンピックでは、聖火ランナーがぶらくり丁や県庁前などを走り、その姿を一目見ようと、沿道にはたくさんの人だかりができ、にぎわったそうです。

もちろん今年開催のオリンピックでも、聖火ランナーが和歌山市内を走る予定となっています。４月１０日はマリーナシティ、１１日は和歌山城の外周を走るコースです。
オリンピックイヤー！開催に向けて、和歌山から盛り上げていきましょう！！

※参考資料　目で見る和歌山市の100年、ふるさと和歌山市、和歌山市今昔写真帖、
和歌山県教育委員会ホームページ